慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	企業革新とスタッフの役割
Sub Title	
Author	源五郎丸均(Gengoroumaru, Hitoshi) 奥村昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第684号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0684

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0684

学生氏名　源五郎丸　均
（久光製薬株式会社）
所属ゼミナール　奥村昭博研

主査　奥村昭博
副査　石田英夫
青井倫一

企業革新とスタッフの役割

今日のように環境が変化している状況にあっては、組織は自己革新に成功することで、より大きな成長を遂げることができるであろう。この自己革新を組織内に現在ある秩序を新しい秩序に組み替えることであると考えると、自己革新に企画部門は不要であるとの結論が導き出されることになる。なぜなら、企画部門は組織の中で計画と統制を担当する部門だからである。しかし、組織の自己革新にとって企画部門は本当に不要なのであろうか。このような問題意識が本研究に着手するきっかけとなっている。

企業の自己革新についてはいくつかの理論が展開されているが、本研究ではその理論を情報創造論と自己組織化の原理に求め、特にその革新のプロセスに着目した。革新のプロセスにおける情報創造パターンとしてミドル・アップ・マネジメントが主張されているが、このモデルでは情報創造の主体にのみ関心が集中し、そのはたらきを促進させる機能に対する説明が十分でない。そのため、このプロセスのはたらきを促進させる役割として企画部門の機能に注目し、実証研究を行った。

その結果判明したことは、企業革新のプロセスにおいて、まずそのプロセスに情報の意味が増幅されるプロセスと意味がビジョンに向かって収斂されるプロセスがあり、収斂のプロセスで新たな秩序が形成されること。それぞれのプロセスに企画部門が積極的に関与することによって、その革新の度合いとスピードが促進され革新が成功することである。このような企画部門は、従来の計画と統制を志向したものとは異なり、意味創造を促進させるような「場」を設定する機能を発揮している。